

認知症

はじめに

何らかの原因によって脳細胞が傷つき、そのため“社会生活をおくるのに支障をきたすほど記憶力が低下した状態”をいいます。

2012年の調査では305万人の患者がおり、65歳以上人口の実に10%を占めています。

今回は認知症の種類について解説します。

突然ですが、桜・猫・電車の3つの言葉を覚えてください。
また後で質問しますのでしっかり覚えておいてくださいね。

1. アルツハイマー病

認知症の50%を占めています。

脳神経細胞が何らかの原因で変性して、そのため脳が委縮することによって起こります。

症状は中核症状と周辺症状があります。

中核症状は脳細胞の減少により生じる①記憶障害、
時間や場所が分からなくなる②見当識障害、
簡単な計算ができなくなる③理解・判断力の障害、
計画的に行動が出来なくなる④実行力障害があります。

周辺症状は中核症状を受けて起こります。

例えば、自分が財布を仕舞ったことを忘れてしまい、「盗まれた」という妄想が起こる「物盗られ妄想」、排泄の仕方が分からなくなって便を壁に塗り付ける「弄便(ろうべん)」、場所が分からなくなったことにより起こる「徘徊」などです。

また、性格も変化して暴力的になったり、暴言を吐くといった症状もみられます。



2. 血管性認知症

認知症の20%を占めています。

脳梗塞や脳出血により脳神経細胞が破壊されて起こります。

症状はアルツハイマー病と同様に記憶障害がみられますが、症状が突然出現したり、階段状に進行したり、症状が変動したりするのが特徴です。

3. レビー小体型認知症

認知症の20%を占めます。

レビー小体と言われる異常たんぱくが、脳の中に貯まることによって起こります。記憶障害以外に、「壁を虫が這っている」「子供が枕元に立っている」といった幻覚が早期からみられるのが特徴です。

また、パーキンソン病と同様の手の振え、
初めの一步が出ないすくみ足、
小股でトットトと歩く小歩・突進現象などの
運動障害がみられます。



4. 前頭側頭型認知症

前3者に比して発症頻度は低いのですが、初老期に発症しやすい認知症です。以前はピック病と言われていました。ピック球と言われる異常な構造物が脳に貯まり、前頭葉や側頭葉が委縮していくことにより起こります。

記憶は保たれているのがアルツハイマー病と大きく異なります。

前頭葉は物事を計画的に実行する。物事に対する関心を保つ。

本能を抑制して理性的にふるまう。他人の気持ちを推し量って行動する。

といったことをつかさどっていますが、これが破壊されるために性格が急変するのが大きな特徴です。

今回は認知症をおこす主な病気を簡単に解説しましたが、その治療についてはまた後日解説します。

さて、テストです。

- ①さっき覚えてもらった言葉を言ってください。
- ②野菜の名前を1分間でできるだけ多く言ってください。
- ③A4の白紙に10時10分を指す時計の絵を描いてください。



答えはウラページにあります。